お客さまへ

ご使用前に、この「取扱説明書」を必ずお読みください。お読みになった後、大切に保存し、必要なときにお役立てください。

安全のために必ずお守りください

警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止
- 器具の改造や指定部品以外の交換はしない。（火災・感電・落下の原因）
- 器具やランプを布や紙などで覆わない。（可燃物をかぶせて使うと火災の原因）

禁止
- 器具のすき間や放熱穴に金属類を差し込まない。（火災・感電の原因）

注意 誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

禁止
- お客さま自身で電気工事はしない。電気工事士の資格が必要です。（火災・感電の原因）
- ランプに塗料などを塗らない。（ランプが過熱・破損してけがの原因）
- 器具の直下や近くにストーブなどの熱器具を置かない。（過熱して火災の原因）

禁止
- 節電その他の理由でランプを取り外して間引き点灯しない。
- ランプを落としたり、（物を）ぶつけたり、無理な力を加えない。（ランプが破損してけがの原因）

厳守
- 器具は指定の制御装置と組み合せて使う。（過熱して火災の原因）
- 明るく安全にご使用いただくために半年に１回の保守・点検を行う。

インバータ器具の取扱い

■テレビ、ラジオなどの音響機器や、赤外線リモコン、ワイヤレス機器などに、雑音や動作不良を起こす場合があります。
■器具の近くでワイヤレスマイクを使用すると、雑音が入り正常に作動しない場合があります。
■放送設備などの音声信号や映像信号は微弱なため、電源線や安定器の配線からの雑音を受けることがあります。

ランプ交換・器具の清掃

⚠警告 電源スイッチを切ってから行う（感電の原因）

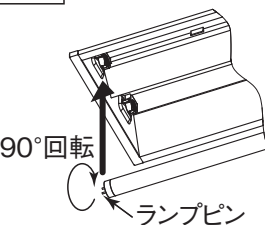
ランプ交換

適合ランプ　FHF32
FL40SS(EX)/37

指定された適合ランプを使用してください。

(1) ランプを 90°回転させ、ソケットからはずす。
(2) ランプピンをソケットに差し込み、90°回転させ、ランプを確実に装着する。

蛍光ランプは点滅回数が多いと短寿命になります

⚠注意
- ○点灯中及び消灯直後のランプや器具には触らない（高温のためやけどの原因）
- ○ランプをソケットに確実に取付ける（取付けが不完全な場合落下の原因）
- ○使用済みのランプを不用意に割らない（ガラスが飛散してけがの原因）
- ○ソケットの清掃に洗剤を使用しない（洗剤でソケットが破損しランプ落下の原因）
- ○違う種類の適合ランプを混ぜて使用しない（短寿命の可能性有）

清掃

○カバーなどプラスチック部分には次のものを使用しないでください。
・みがき粉やたわし　・殺虫剤
・シンナーなど揮発性のもの　・熱湯

○反射板の汚れは、やわらかい布でふきとってください。
○ランプ・プラスチックや金属部分の汚れは、やわらかい布にぬるま湯または水をつけてよく絞ってふきとってください。

⚠警告
器具・ランプを水洗いしない（火災・感電の原因）

照明器具の寿命について

●照明器具には寿命があります。設置して８～10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化が進行しています。点検・交換をおすすめします。
※使用条件は周囲温度 30℃、1 日 10 時間点灯、年間 3000 時間点灯です。

●周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合は寿命が短くなります。
●３年に１回は工事店等の専門家による点検をお受けください。
●点検せずに長時間使い続けると、まれに、発煙、発火、感電などに至る恐れがあります。

保証について

■保証期間は商品お買上げ日より１年間です。ただし、蛍光灯器具内蔵の安定器は３年間です。ランプ、グロー点灯管、電池などの消耗品は対象外です。詳細は弊社カタログをご参照ください。

異常時の処置

⚠警告
煙が出たり、変な臭いがしたり、破損したなど異常を感じた場合はすぐに電源スイッチを切る。（火災・感電の原因）
煙が出なくなるのを確認して、工事店または下記連絡先にご相談ください。

NECライティング株式会社

東京都港区芝一丁目7番17号（住友不動産芝ビル3号館）
〒105-0014　http://www.nelt.co.jp/
※この紙は再生紙を使用しています

<お客様相談室>
フリーダイヤル　0120-52-3205
受付時間　平日9:00～12:00、13:00～18:00
（土、日、祭日は受け付けておりません）
FAX. 03-6746-1521

E762Z855H21

NEC 照明器具

連続調光用器具

ファインベース

このたびは NEC 照明器具をお買上げ頂きありがとうございました。

保管用

型式名	公共施設形名	電圧	周波数	消費電力
ME32225-X1	FRS15-322	100V	50/60Hz	99W
ME32225-X6	FRS15-322	200 - 254V	50/60Hz	97W

※ FHF32 使用の場合

取扱説明書

○この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できません。また アフターサービスもできません。
○電源周波数50Hz、60Hz共用形ですから、日本全国どこでも使用できます。

施工者さまへ

○施工の前に、この「取扱説明書」を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
○取付工事の後、必ずお客さまにお渡しください。

安全のために必ず守ること

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、⚠警告、⚠注意の表示で区分して説明しています。表示の意味は表中で説明しています。

図記号の意味は次のとおりです。

警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止
- 引火する危険のある雰囲気で使わない。（ガソリン・可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・可燃性粉じんのある所で使わない）（火災の原因）
- 器具取付けの際は電線を挟まない。（絶縁不良により感電・火災の原因）

禁止
- 配線工事の際、電線の絶縁体にキズをつけない。（絶縁破壊により感電・火災の原因）
- 電源線を器具の外郭に直接触れさせない。（過熱して火災の原因）

厳守
- 施工は電気工事士の有資格者が電気設備の技術基準・内線規程に従い行う。

注意 誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

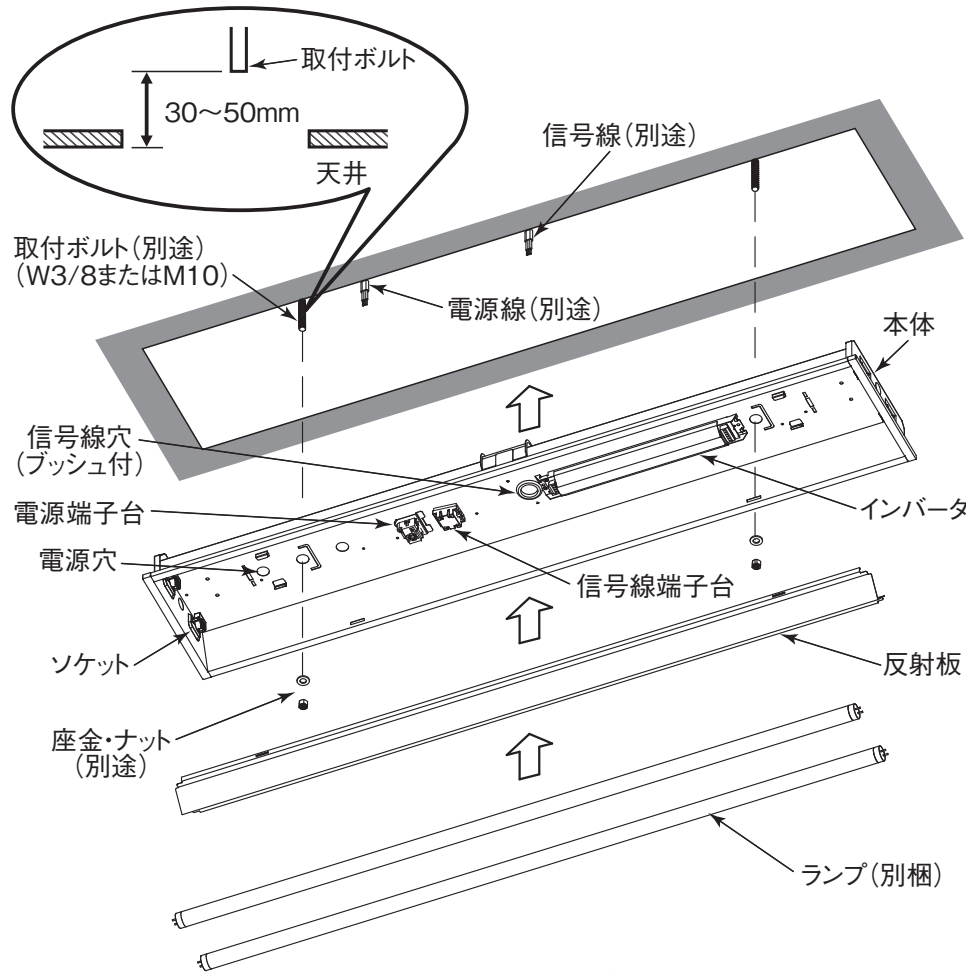
禁止
- 高温（35℃以上）、粉じん、強い振動・衝撃のある場所で使わない。（落下・感電・火災の原因）
- 油煙のある場所では使用しない。（油でソケットが破損しランプ落下の原因）
- さびの出やすい場所、腐食性ガスの出る場所で使わない。（劣化による落下の原因）
- 器具を乾燥不十分なクロス貼り・コンクリート面には取付けない。（絶縁不良やさびにより感電・落下の原因）
- 風呂場など水や湿気の多い場所で使わない。（火災・感電の原因）
- 雨水のかかる場所で使わない。（水気・湿気が入り感電の原因）

禁止
- 器具の外郭を天井内の造営材・ダクトに触れさせない。（火災・感電の原因）
- 表示された電源電圧以外では使わない。特に定格電圧の 90%以下の電圧使用は、安定器の短寿命、故障となります。（火災・感電の原因）
- 器具のノックアウトを外す場合はドライバー等により電線を傷つけない。（絶縁不良により感電・火災の原因）
- 狭い箱のような中で使わない。また、器具を隠して使う場合は、放熱を妨げない。（器具が過熱して火災の原因）
- 調光用専用器具以外は調光させない。（器具が過熱して火災の原因）

お願い

■周囲温度は５～35℃の範囲でご使用ください。点灯始動保証温度は－5℃以上です。周囲温度 5℃未満での連続使用は、ランプ光束の低下やランプの短寿命となります。
■商品監視システム（防犯センサー）の一部の機器はインバータの周波数と干渉して誤作動する場合がありますので、事前に商品監視システムのメーカーにご確認ください。
■インバータ器具の場合は、電力線搬送を使用した機器と電源を共用すると、電力線搬送機器が正常に作動しない場合があります。
■器具と半導体スイッチ式人感センサスイッチを組合せるとチラツキや騒音の発生、インバータ故障の恐れがあります。リレー接点式人感センサスイッチをご使用ください。

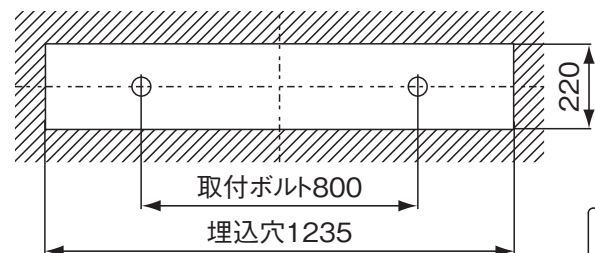
各部のなまえと取付けかた

⚠警 告 器具の取付けは取扱説明書に従い行う（不確実な取付けは、器具落下・感電・火災の原因）

1 取付前の確認

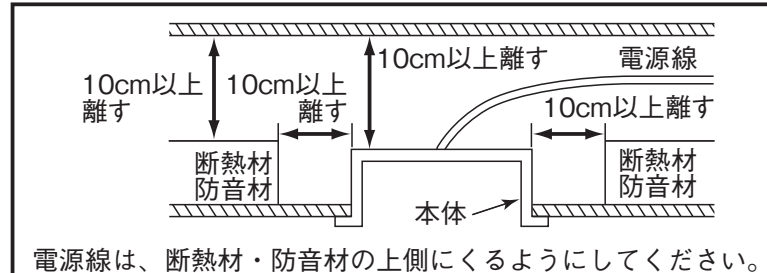
器具質量に十分耐えるよう、取付ボルトの強度を確保する。

⚠警 告
器具の取付けは質量に耐える所に取付ける
（落下の原因）

2 天井に埋込穴をあける

埋込穴、取付ボルトを図のように用意する。（単位 mm）

⚠警 告
断熱施工天井に取付けない（火災の原因）

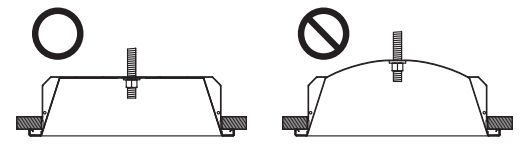
断熱材施工
不　可

断熱材・防音材をご使用の場合は、次の取付条件をお守りください。

電源線は、断熱材・防音材の上側にくるようにしてください。

3 器具本体をボルトに取付ける

(1) 使用する電源穴に付属のコードブッシュをはめ込む。
(2) 電源線・アース線を器具本体のブッシュ付電源穴から引き込んでおく。
(3) 本体を取付ボルトに確実に取付ける。ナットの締付トルクは0.7〜1N･mです。

⚠警 告
取付けが不完全な場合落下の原因

締付トルクが過ぎると、器具変形、天井面とのすき間の原因となります。
すき間を見ながら締付け調整してください。

4 電源線を電源端子台に接続する

(1) 電源線を電源端子台の差し込み穴に確実に差し込む。

⚠警 告
接続が不完全な場合は、接続不良による発熱により火災の原因

電源端子台
はずし穴
皮むき長さ
12mm
アース
確実に
差し込む
電源線
（高電位側）
電源線
（低電位側）
アース線

(2) アース線を差し込み穴に確実に差し込む。

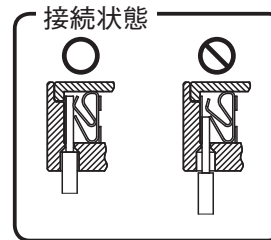
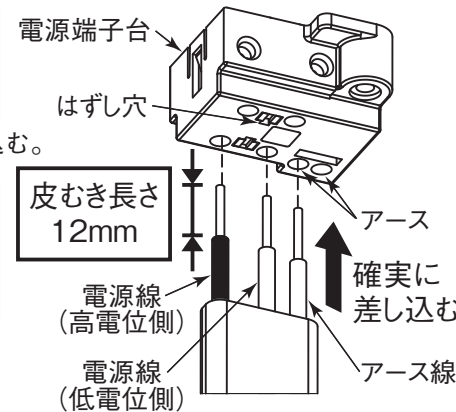
⚠警 告
アース工事は電気設備の技術基準に従い行う（アース工事が不完全な場合は感電・火災の原因）

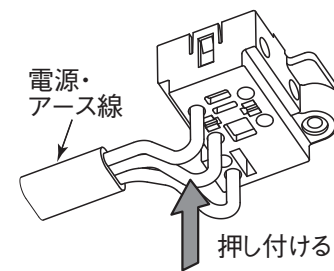
< D種（第3種）接地工事が必要です。>

○電源端子台の容量は 20A です
○適合電線：φ 1.6mm 単線　φ 2.0mm 単線

⚠警 告
送り配線は照明器具専用とし、容量を確認して接続する（容量を超えると電源端子台が過熱・損傷し火災の原因）

⚠警 告
電源の接続は適合太さの電源線を指定長さに被覆をむき、１本ずつ速結端子の奥まで差し込む
（差し込み不十分は接触不良により火災・感電の原因）

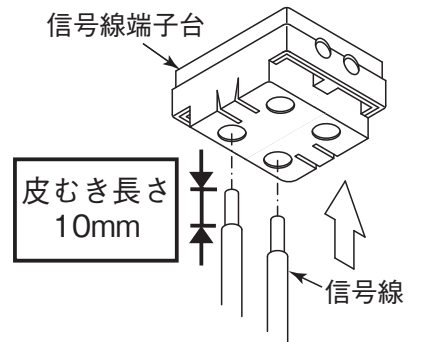
接続状態

(3) 電源線（アース線）の挿入部は反射板との当たりを防ぐため電源端子台に押し付けるように小さく曲げる。

○電源線接続の速結端子の電源線を取り外すときは、幅6mmのマイナスドライバーを、はずし穴にまっすぐに差し込んでください。

5 信号線を信号線端子台に接続する

信号線を信号線端子台の差し込み穴に確実に差し込む。

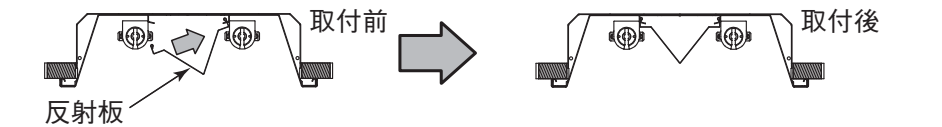
適合信号線　φ 0.9mm 〜 φ 1.2mm
　CPEV-1P

接続が不完全な場合、動作不良の原因となります。

⚠警 告
信号線端子台には電源線を接続しない
（過熱・損傷し火災の原因）

6 反射板を取付ける

⚠警 告
反射板取付けの際は電線を挟まない（絶縁不良により感電・火災の原因）

⚠注 意
取付けが不完全な場合落下の原因

○反射板の角穴を本体の取付爪に**片側２ヶ所**を引っ掛け、反射板をつまみながら、もう一方の角穴を取付爪にはめこむ。

7 ランプを確実に取付ける

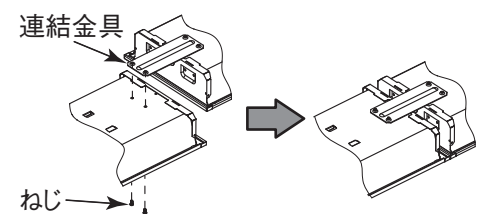
ランプピンをソケットに差し込み、90°回転させ、ランプを確実に装着する。
※「6. 反射板を取付ける」参照

⚠注 意
取付けが不完全な場合落下の原因

8 連続取付けの場合

<天井切り込み寸法>　（単位 mm）

Nは連結台数を示す
器具単独取付けの場合:1235mm×220mm

<器具単体の連結方法>
本体の片側端部に連結金具（特注品）をねじで器具本体の内部より締め付け、器具を順次取付ける。
なお、終端の器具には連結金具は不要です。

9 オプションの取付け

○オプションを取付ける場合は、本体側面にある角ノックアウトを抜く。
○この器具は各種オプション（別売）が取付け可能です。目的に合ったオプションをカタログご参照の上ご使用ください。